

中小企業信用保険法第 2 条第 4 項第 7 号の規定による認定申請書

令和 年 月 日

荒 川 区 長 殿

申 請 者
住 所

事業所名・法人名
代 表 者 氏 名 印

私は (注 1) が経営の相当程度の合理化に伴う金融取引の調整を行っていることにより、下記のとおり、借入れの減少が生じ、経営の安定に支障が生じておりますので、中小企業信用保険法第 2 条第 4 項第 7 号の規定に基づき認定されるようお願いします。

記

- 1 金融機関からの総借入金残高のうち、 からの借入金残高の占める割合
% (A/B)
- A 年 月 日の からの借入金残高 円
- B 年 月 日の金融機関からの総借入金残高 円
- 2 からの借入金残高の減少率 % ((D-C) / D × 100)
- C 年 月 日の からの借入金残高 円
- D 年 月 日 (C の前年同期を記入のこと) の からの借入金残高 円
- 3 金融機関からの総借入金残高の減少率 % ((F-E) / F × 100)
- E 年 月 日の金融機関からの総借入金残高 円
- F 年 月 日 (E の前年同期を記入のこと) の金融機関からの総借入金残高 円

(注 1) には経済産業大臣が指定する金融取引の調整を行っている金融機関の名称を記入すること。
(注 2) 申請者の全ての金融機関からの総借入金残高及び指定金融機関からの借入金残高が確認可能な残高証明書、財務諸表、借入証書等を添付すること。

(留意事項)
①本認定とは別に、金融機関及び信用保証協会による金融上の審査があります。
②認定を受けた日から 30 日以内に金融機関又は信用保証協会に対して、保証の申込みを行うことが必要です。

荒産経第 号
令和 年 月 日

申請のとおり、相違ないことを認定します。
(注) 信用保証協会への申込期間：令和 年 月 日から令和 年 月 日まで

荒 川 区 長

(記入例)

中小企業信用保険法第2条第4項第7号の規定による認定申請書

令和 7 年 〇 月 〇 日

荒 川 区 長 殿

申 請 者

住 所 荒川区〇〇〇1-23-34 ヲ〇ビル

事業所名・法人名 〇〇〇建設㈱

代 表 者 氏 名 〇〇 〇〇 印

私は 〇〇〇〇〇〇〇〇銀行 (注1) が経営の相当程度の合理化に伴う金融取引の調整を行っていることにより、下記のとおり、借入れの減少が生じ、経営の安定に支障が生じておりますので、中小企業信用保険法第2条第4項第7号の規定に基づき認定されるようお願いします。

記

- 1 金融機関からの総借入金残高のうち、 〇〇〇〇〇銀行からの借入金残高の占める割合 46.3% (A/B)
- A R7年 6月30日の 〇〇〇〇〇銀行からの借入金残高 5,867,000 円
- B R7年 6月30日の金融機関からの総借入金残高 12,675,000 円
- 2 〇〇〇〇〇銀行からの借入金残高の減少率 80.0% ((D-C) / D × 100)
- C R7年 6月30日の 〇〇〇〇〇銀行からの借入金残高 5,867,000 円
- D R6年 6月30日 (Cの前年同期を記入のこと) の 〇〇〇〇〇銀行からの借入金残高 7,334,000 円
- 3 金融機関からの総借入金残高の減少率 10.4% ((F-E) / F × 100)
- E R7年 6月30日の金融機関からの総借入金残高 12,675,000 円
- F R6年 6月30日 (Eの前年同期を記入のこと) の金融機関からの総借入金残高 14,142,000 円

(注1) _____には経済産業大臣が指定する金融取引の調整を行っている金融機関の名称を記入すること。

(注2) 申請者の全ての金融機関からの総借入金残高及び指定金融機関からの借入金残高が確認可能な残高証明書、財務諸表、借入証書等を添付すること。

(留意事項)

①本認定とは別に、金融機関及び信用保証協会による金融上の審査があります。

②認定を受けた日から30日以内に金融機関又は信用保証協会に対して、保証の申込みを行うことが必要です。

荒産経第 号

令和 年 月 日

申請のとおり、相違ないことを認定します。

(注) 信用保証協会への申込期間：令和 年 月 日から令和 年 月 日まで

荒 川 区 長

